

富士川町春米(つきよね)区における棚田米を活用した米麴の開発



平成27年2月23日

峡南地域活動支援協議会

1. 事業実施地域の課題

峡南地域(市川三郷町、富士川町、早川町、身延町、南部町)は山梨県の南に位置し、古くは富士川舟運で栄えた歴史ある地です。



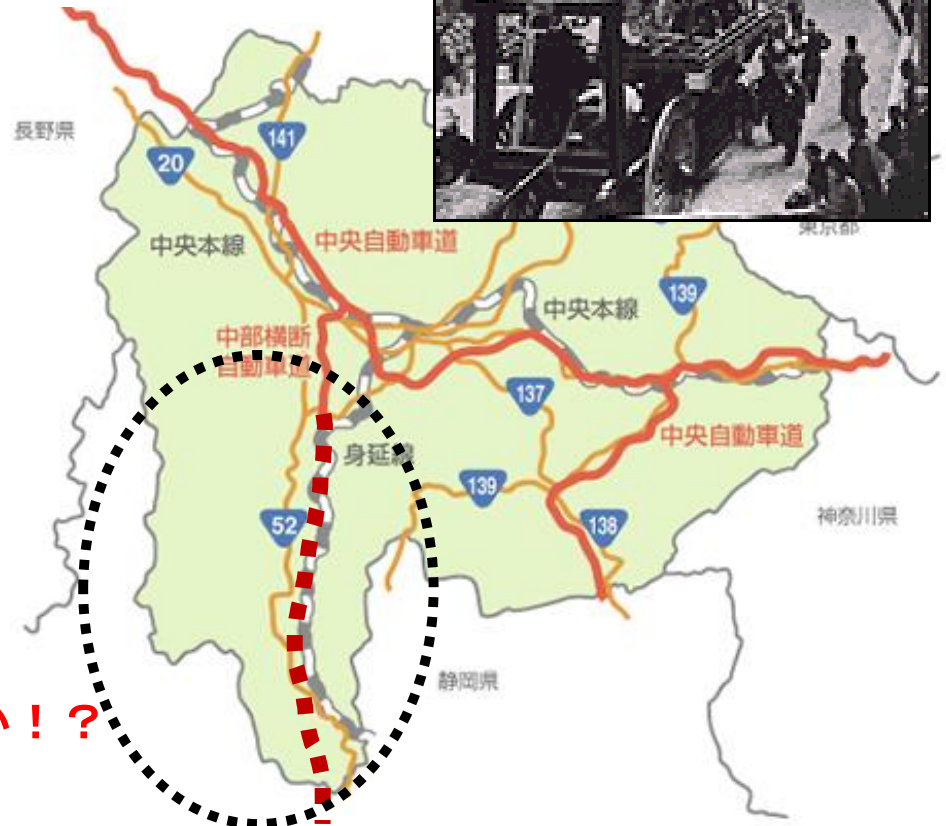
中部横断自動車道の建設

新潟～静岡

きみは日本海を見たか

わたしは太平洋を見たい

ストロー現象で衰退か、独自性で活性化か！？



2. 地域づくり活動支援体制の構成

構成主体	役割(中間支援の内容)
山梨中央銀行	事業計画作成支援 他業者マッチング支援
峡南広域行政組合	PR活動の支援 行政との連携指導
こしべんと開発・普及プロジェクト推進協議会	ブランド化支援 販売先選定支援
NPO 富士川・夢・未来	事業数値化支援 事業推進の指導

- 山梨中央銀行は富士川町青柳支店を中心に、本活動を推進していきますが、必要に応じて、本店の各部署担当者が支援にあたります。
- 峡南広域行政組合は峡南地域：市川三郷町・富士川町・早川町・身延町・南部町5町で構成される行政組合です。
- こしべんと開発・普及プロジェクト推進協議会は、峡南5町の食資源を活用した「こしべんと」による地域活性化を目指す協議会です。
- NPO富士川・夢・未来は、峡南5町の事業者を中心にした会員による、中間支援のNPOです。

3. 担い手の概要

支援対象: 春米の文字を後生に伝える会

春米の字は春の字とともに、上が巻、に己の字を旧に変えた「つき」の文字がありこちらの字は当用漢字の登録から抹消され、変換機能にもだすことのできない、失われた字となってしまいました。

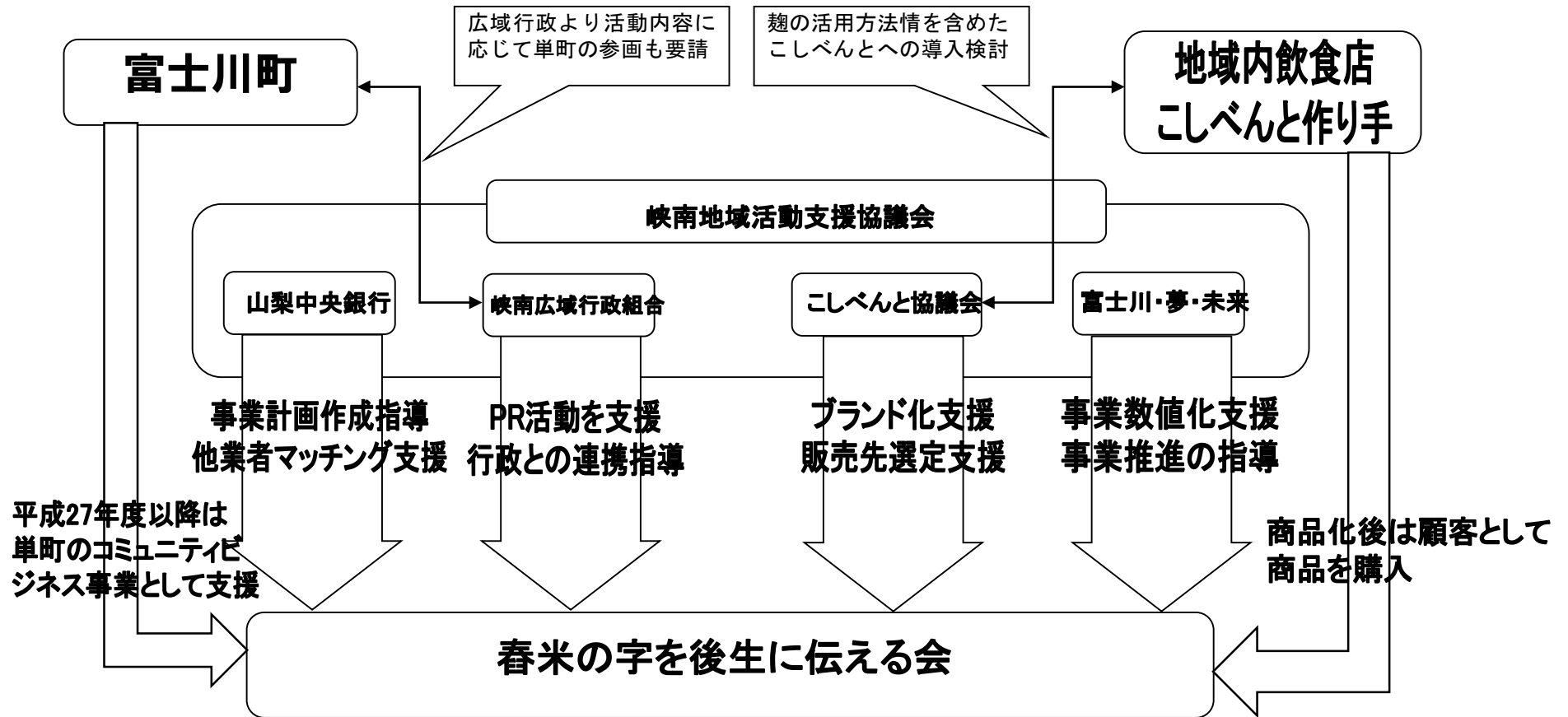
地域の文化とともに、この文字を残そうと、地元住民が「春米の文字を後生に伝える会」を立ち上げ、地元酒蔵の協力のもと春米の酒米を使用した純米酒「春米」が販売されています。

その他、農業体験等の受け入れ事業を実施しています。

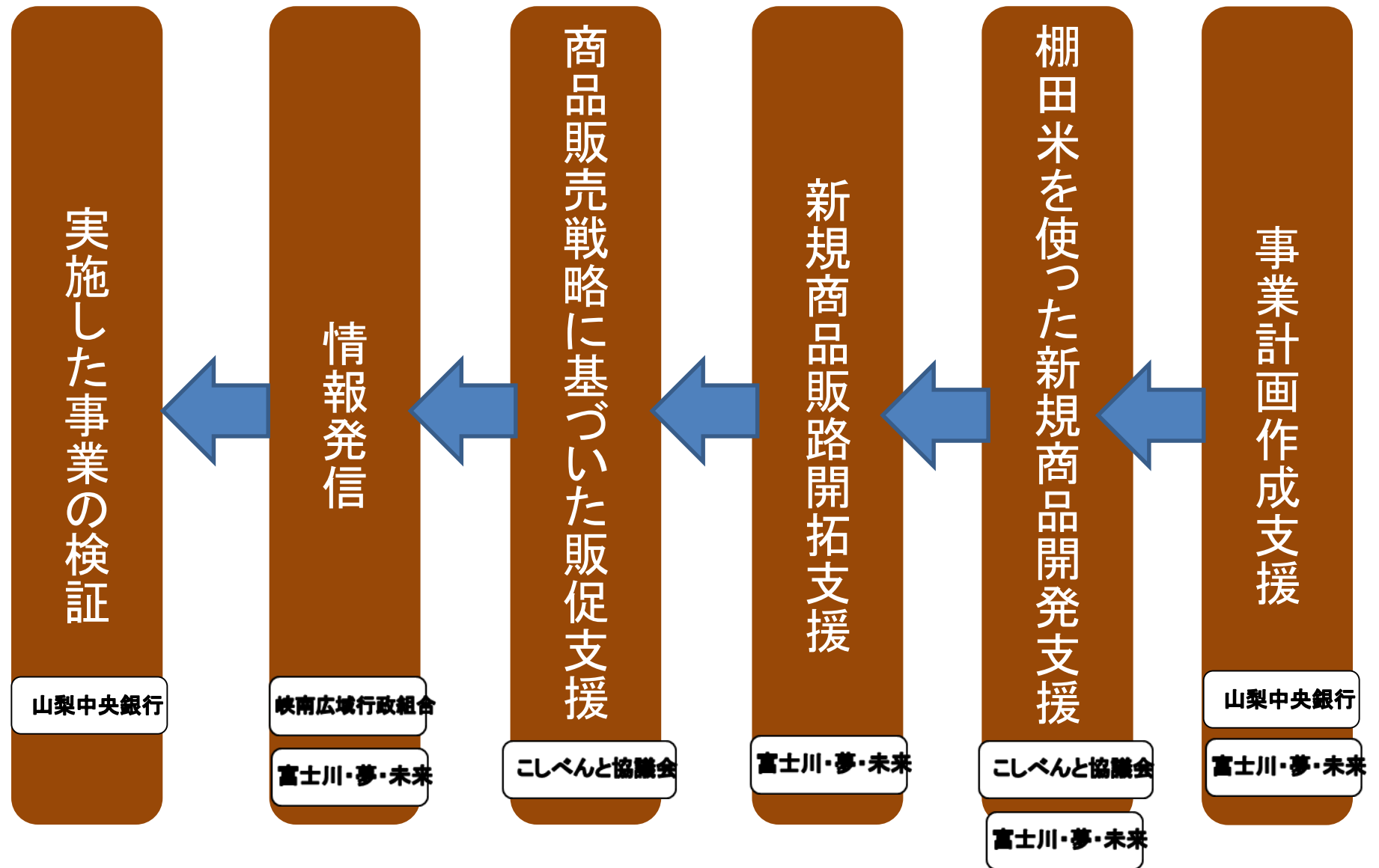


**事業を継続するにあたって、資金収入が見込める新規事業が必要です。
現状のままでは、活動が消えてしまうのも時間の問題…**

4. 事業概要



5. 取組の内容



◎事業計画作成支援

商品開発を進めるにあたって、事業計画づくりをすることで、事業を継続して実施できるよう、支援しました。

事業計画づくりに必要な事項のヒアリング

基本的事業計画づくりのレクチャー



原価計算の支援

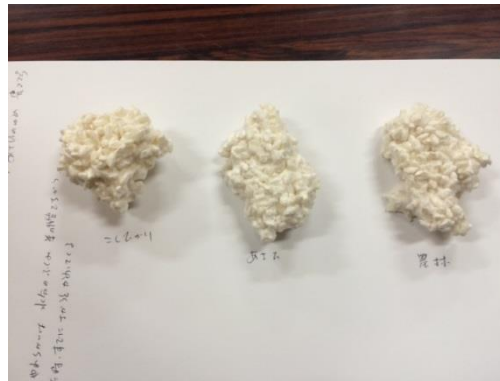


担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
事業計画づくり	山梨中央銀行	事業計画における基礎知識の提供
	NPO富士川・夢・未来	事業立ち上げにおけるヒアリング 原材料の調達先調査と原価算出の支援

◎地元棚田米を使った新規商品開発支援

商品開発における基礎知識のレクチャー

試作品制作支援



担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
新規商品開発支援	こしべんと開発・普及プロジェクト推進協議会	麴制作事業者による麴づくり基礎知識の講習会開催支援
	NPO富士川・夢・未来	講習会への参加者募集支援

◎新規商品販路開拓支援

市場調査

商品の方向性を決定

ターゲットの決定



担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
新規商品販路開拓支援	NPO富士川・夢・未来	市場調査先の選定 依頼

◎商品販売戦略に基づいた販促支援

デザイナーによるブランドづくり支援パッケージ等の販促グッズ制作支援

フレンチシェフによる糀の活用方法レクチャー
メンバー向け 地域住民向け 一般向け



担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
新規商品販路開拓支援	こしべんと開発・普及プロジェクト推進協議会	フレンチシェフの選定・依頼 レクチャーへのこしべんと作り手参加を呼びかけ

◎ブランドイメージを活用した情報発信

東京での食品展示会への出展

新東名 駿河湾沼津サービスエリアでのPR出展

事業のPR支援 地元メディア活用

地元を中心とした事業者などへのDM発送

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
情報発信	峡南広域行政組合	独自サーバーへのサイト掲載の検討 新東名サービスエリアPR支援
	NPO富士川・夢・未来	食品展示会出展支援 地元メディアへの調整 DM発送支援



食べる糀 もち麦入り米糀



飲む糀 もち麦入り甘酒



五種類のフレーバーが味を彩る



食べる糀・飲む糀

もち麦入り米糀

山梨県富士川町春米の標田で育った米を、新しい南アルプスの伏流水で、一粒一粒丹精込めて仕上げました。旨みの素となる糖質とアミノ酸と乳酸菌... エイジングケアに最適なビタミン群や酵素... そして健康食たっふりなもち麦を入れ、調味料としての深い味わいとともに、身体に有効な健康食品としての効果も期待されます。そんな万能な米糀の味をお届けします。

もち麦入り甘酒

丹精込めて醸した糀が活きる甘酒に、ゆず、matcha、べにいも、にんじん、えごまの五種類の味をフレーバーとして使用し、健康食たっふりなもち麦を加えることで、これまでにない食後の甘酒が誕生しました。ストレートで... ミルクや豆乳など好きなドリンクで割って... その清らかな味をお楽しみください。

春米糀とは

いにしえの頃、朝廷により米作りの土地が指定された。その地で丹精込めて育てられた米は、土地の女性たちによって、うすたてて酢でもみすりを行い、朝廷へと献上した。その土地は「春米」と呼ばれ、今もその名を残している。山梨県富士川町春米の標田で育った米を醸し、地場の五種類の特産品を「フレーバー」として使用し、健康食たっふりなもち麦を加えた米糀です。

五種類のフレーバーが味を彩る

おおつかにんじん 市川三郷町
石が少なく、のりが豊かな「おおつか」と呼ばれる肥沃な土で、江戸時代から作られてきた「おおつか」にんじん。昔ながらの味香りのある大根です。

ゆず 富士川町
明治時代以来の伝統をもつ「富士川町のゆず」は富士山に守られ育ちます。酸が爽やかで、皮が厚く、香り高いことが特徴です。

えごま 早川町
早川町は七〇年以上前から、稲刈りの集落でシソ科の植物種子の「えごま」が栽培されており、行灯の油として「えごま」油を七面山に献上していたことが記録として残っています。香ばしい香りの「えごま」が合います。

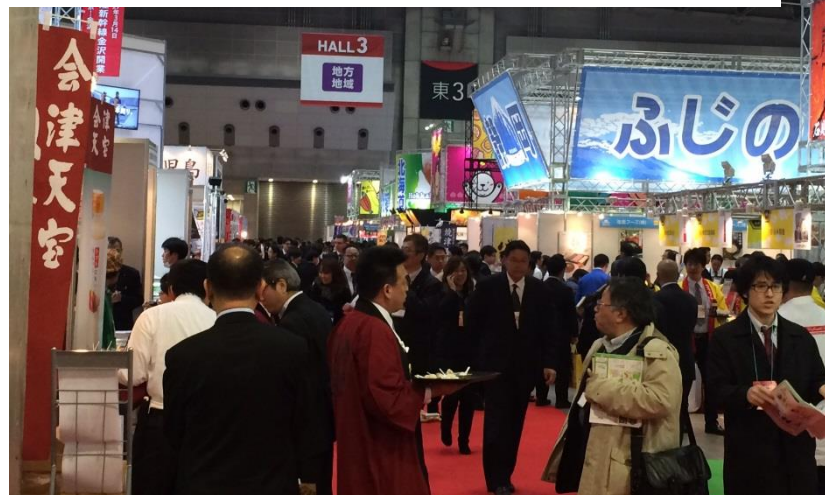
べにいも 身延町
富士川の東に広がる身延町の農地で、地元のおおあさだ育ちで、富士川の水で育てられ、紅芋にはさらさらとした食感、カサシが合います。甘い甘みが生きます。

matcha 南都町
暖かい気候と、また降水量も多く、茶の栽培に適している。南都町、戦国時代からすでに「matcha」としての地産茶葉は使われていました。昔ながらの製法を守りつつ、山里で作られた緑茶の粉米を使いました。





第10回いこだわり食品フェア2015
2月10日(火): 30,292人
2月11日(水): 25,621人
2月12日(木): 28,701人
合計: 84,614人







UTY
ニュースの星



甲府 峡南 峡中

峡南
山本 昌雄
代表 監理
(0556) 22-5431, 5432
FAX 22-1787

米こうじに「春米産」 富士川 伝える会が新商品

富士川町喜米の米から作られた米こうじ

富士川町喜米の住民有志では、同町で採れた米で「米こうじ」を作った。米こうじは、米を蒸して麹菌で発酵させたもので、健康食品として注目を集めている。同町では、この「米こうじ」を、地元の特産品として、2月中旬から販売を始める。同会は、2012年に「米こうじ」を、地元の特産品として、2月中旬から販売を始める。同会は、2012年に「米こうじ」を、地元の特産品として、2月中旬から販売を始める。

「高齢者や地域の人が「地域の先生」として関わり、子供たちの学びの場、地域の人はやりがいの場となる」と話した。

宮本氏は「お金をかけず地域の力を活用」とし、「二、三教員にボランティアで、子供と接点を持つ」と話した。

樋口氏は、教育がテーマの場には関わらず、最後の有権者に向けたメッセージで、4期連続の協議時代から、人権学校の実施や公立学校のバリエーションを付けて食べる地域住民ら「富士川町喜米」

品が入った種類を試した。それぞれの味や香りが異なるため「料理に合わせ使い分けられる」と担当者。各米こうじを使った甘酒も作った。16日には、同町峡中・峡南・峡北を回る「試食会」を開いた。北杜市の「富士川町喜米」のシェフが、米こうじを使った料理を、米こうじの味を比較しながら楽しんでいた。

●紙面掲載の写真は購入できません

◎実施した事業の検証

事業内容を検証し、原価計算、損益分岐点の算出等数値化を実施し、生産目標の設定など事業計画検討の支援

原材料調達の方法を再度検討

受注体制の整備として窓口の明確化

次年度事業計画策定 富士川町との連携について調整

担い手の活動	中間支援の内容・構成主体	
事業計画づくり	山梨中央銀行	事業計画検討の支援と、融資の可能性検証
	NPO富士川・夢・未来	富士川町の支援体制の調査支援 地域内連携等の調査

6. 取組の成果と課題

◎取組の成果・課題

支援対象のレベルアップ

誰かがやってくれる。「たぶん大丈夫」な活動から、自分がやる、このままではなくなってしまうとの問題意識への目覚め。中心の人物だけが動く活動から、担当を決め、新しい人を巻き込む活動へとレベルアップした

商品の売上や成長

日本酒づくり：酒米を作って、農協に販売するだけ。出来上がったお酒を購入するだけ＝自前の開発なし、赤字事業



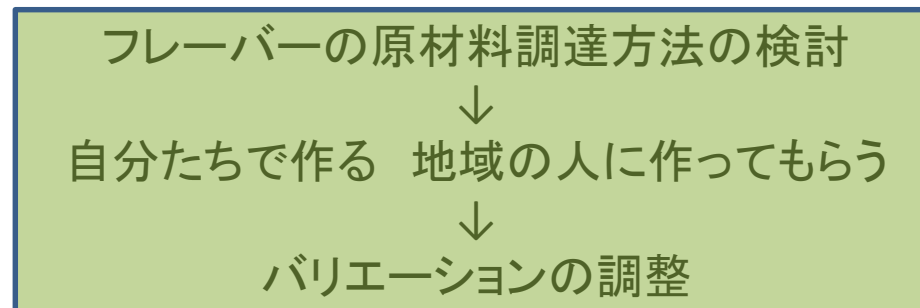
原材料を調達し、商品開発から販売までを手掛け、利益を上げていく事業を実施する活動へと成長した。

◎活動の社会的意義・社会的成果

同じ町内で活動を実施している団体からの相談が入るようになった。担い手がひとつの事例として、地域で注目されている。

◎地域ビジネスの達成状況・今後の見通し

商品開発をし、注文を受注できる体制ができあがったが、原材料調達の方法とバリエーションに調整が必要。今後、原価コストの削減を含めた調整を繰り返し、さらなるビジネスとしての収益性UPを検討することで、事業を継続できることが考えられる。



◎成果目標

成果目標	現状(年度当初)	目標	達成状況
春米新規商品の売り上げ	0	一般顧客向け販売 50万円とする 業務用販売20万円とする	予約販売 事業者向け契約 直接販売
春米新規商品のPR活動参加者数	0	広域行政組合主催企画への参加による活動9月、3月 参加者各日200人合計400人 東京ビックサイトにて こだわり食品フェア2015参加2月10日～12日の3日間 参加者5000人	こだわり食品フェア参加2月10日～12日 3日間84,614人 新東名高速道路 駿河湾沼津サービスエリアPR活動2月18日 500人へPR

7. 中間支援における課題と対応

●支援対象の自立を促進させる

モチベーションアップのため、メディア戦略を活用した。

＝他地域の人から認められることで、活動の意義や良さ、やりがいを感じる。

最初に事業計画を立てる予定であったが

＝まずは現状の会計状況を把握し、独立した会計作業をすることが必要だった。

手を離すタイミングはどこか！？

●中間支援をする立場で

支援する手順・手を出す加減を確認することができた。

- ・現状把握から始まる支援活動：ヒアリングの大切さ＝人間関係の構築
- ・手を出しすぎてもダメ、まかせすぎてもダメ ヒアリングから力量を読み取る
全部やってくれるから… どうせダメだし… とならないように

体制として連携することで ＝支援対象が生半可な気持ちではいけないと真剣になる

構成主体間のつながりが強化され、新たな取り組みを模索するきっかけになった

＝お互いが必要な情報をやりとりし、地域情報の共有によりそれぞれの事業に広がり
が生まれた

8. 事業終了後の予定

事業終了後の取組のスケジュール

春米の会に対して：富士川町コミュニティービジネスへ春米の会が申請できるよう支援を続ける

活動費の確保：支援先に「会員」となってもらい、会費収入などの収入を図るとともに、必要経費については、支援先負担を考える。

協議会の活動の継続：あくまでも支援活動が中心であり、協議会自身が事業をせず、支援先が「主役」となる活動でありつづけることで継続していく。

活動の体制：NPOが事務局を務め、構成主体として登録するところが増え、事業ごとに支援する構成主体がそれぞれ対応していく

峡南地域活動支援協議会

構成主体

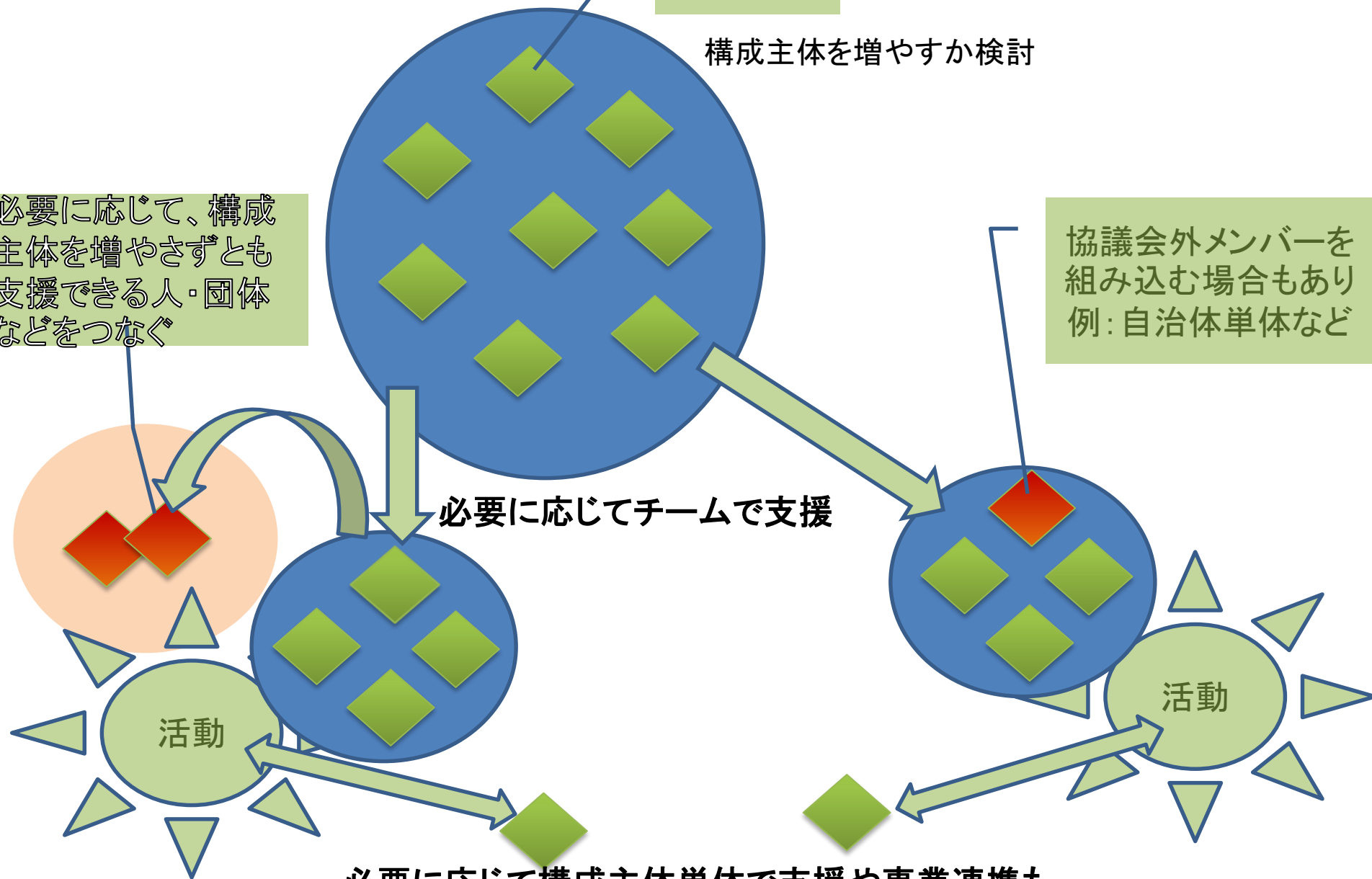
構成主体を増やすか検討

必要に応じて、構成主体を増やさずとも支援できる人・団体などをつなぐ

協議会外メンバーを組み込む場合もあり
例：自治体単体など

必要に応じてチームで支援

必要に応じて構成主体単体で支援や事業連携も



◎新たな担い手に対する支援の事業計画

平成27年度

春米の会＝富士川町コミュニティビジネス事業申請を支援

＝今後の事業も継続して支援していく。

富士川町鰯沢地域にて生産したさつまいもで焼酎作っている団体

＝特色を生かした販売をめざして助言を求めている。

富士川町箱原地域の農産物生産団体のジャンボにんにく

＝事業の安定化等をめざして相談がきている。

平成28年度

支援した事業の検証と、継続した支援。

富士川町以外の支援先検討

問い合わせへの対応：相談窓口の開設

平成29年度以降

支援した事業同士の連携をはかるための企画を実施

地域活動の洗い出しを行うために広く参加を募る。

問い合わせへの対応